

Personal Project

Personal Projectとは、「MYPにおける生徒の経験の集大成であり、ATLとグローバルな文脈における経験を証明するプロジェクト。MYPの最終年次に完了します。」と「MYP原則から実践へ」に書かれている。

1、実施生徒と実施期間

2019年度4年次 157名 2019年4～9月

2、研究過程：調査⇒計画⇒行動⇒振り返り

最初は、教師が「探究の過程（次の1～4の段階）」「成果物について」「レポートについて」「プロセスジャーナルについて」を提示し、生徒は、ほぼ正規の授業外で取り組む。各段階の終わりに、担当教員（本校全教員で160名全員を分担）との面談を行い、〆切日までにその教員のTurnitin（剽窃・盗用文責サイト）に提出する。以下に段階の概要を述べる。

（1）調査

この段階では、プロジェクトの明確な目標やグローバルな文脈の定義、関連性の高い教科と既習事項を執筆する。幅広い調査が今後を左右し、その質や量を自分のリサーチスキルの振り返りと共に示す。

（2）計画

この段階では、プロジェクトの最終成果物や作品の評価基準を先に設定する。これは日本の教育ではあまり見られない点である。その基準を満たすための計画も作成し、後に実際の記録と共に、過程での自己管理スキルを振り返り記載することとなる。

（3）行動

2の計画をもとに生徒は作品や成果物作成に取り組む。用いた思考スキルやコミュニケーションスキルも記録し、後にレポートに具体的な表現で示す。

（4）振り返り

生徒はプロジェクトの作品や成果物の出来映えを自ら設定した評価基準で自己評価する。そしてIBの学習者として成長や学びの深まりを総括的に記載する。

3、実践例（生徒レポートを抜粋）

（1）「海外に向けて浴衣をつくる。」



「私は異なる国の文化や言語、国籍の人と話すことに興味がある。洋服ではなく浴衣にすることで、私自身が日本の文化について知り、海外の人々に紹介することでコミュニケーションが取れると考えた。」

（2）「災害時に利用できる段ボールベッド」



「段ボールベッドとして既に多くの製品が作られ、実際に避難所に導入されているが、改善する事でより安心・安全に生活する事ができるような点がある。」

4、今年度の振り返り

生徒の興味関心による成果物に魅力的なものが多かった。この取組は、研究の成否だけでなく過程が評価される。生徒が評価基準を設定する力や、生徒と教員の評価の精度を高めることが課題である。